

令和5年9月7日
(資料提供)

(事務担当)

所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病害虫防除室
直通：257-6972

令和5年度病害虫発生予報第6号について

今後発生が予想される大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

- 1 予報期間 9月上旬～9月下旬
 - 2 予報内容
- 大豆

葉焼病の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

フタスジヒメハムシの発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。発生初期に防除を実施する。また、薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果 樹

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。また、発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生は**多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。